

2007年5月18日

独立行政法人・緑資源機構の解体を求める・声明

大規模林道問題全国ネットワーク代表 河野 昭一
大規模林道問題ネットワーク事務局
細見谷保全ネットワーク代表 金井塚 務
大規模林道問題北海道ネットワーク
大雪と石狩の自然を守る会代表 寺島 一男
ナキウサギふあんくらぶ代表 市川 利美
十勝自然保護協会会長 安藤 御史
北海道自然保護協会会長 佐藤 謙
北海道自然保護連合代表 寺島 一男
葉山の自然を守る会代表 原 敬一
博士山のブナ林を守る会代表 東瀬 紘一
早池峰の自然を考える会代表 奥畑 充幸

現在進行しつつある地球温暖化による大規模な気候変動は、世界各地で洪水や干ばつといった災害をもたらしている。食糧の確保はもとより、大規模災害から国民の生命・財産を守るという観点からも環境保全は待ったなしの喫緊の課題である。しかるにわが国土を見渡せば生物多様性に富む豊かな自然は、全国各地で見る影もないほどに破壊されつつある。沿岸生態系、河川生態系は言うに及ばず、これら生態系を支える物質循環の要となる森林生態系はかつての大面積皆伐、拡大造林政策によって大きく損なわれた。その反省もないまま、今日なお、北海道をはじめ、東北、中部、中国、四国、九州と日本列島の至る所で、大規模林道（緑資源幹線林道）工事による豊かな森（森林生態系）の破壊が続いている。

たとえば、広島県廿日市市吉和の西中国山地国定公園内に位置する「細見谷溪畔林」を縦貫する大規模林道「大朝・鹿野線 戸河内吉和区間（二軒小屋・吉和西工事区間）」もその一例である。この細見谷溪畔林は、西日本ではほぼ唯一の原生的自然をとどめ、広大な氾濫源を有する日本でも希有な存在として、図抜けた生物多様性を誇る計り知れない学術的価値を有する自然である。大規模林道工事による「いかなる舗装も溪畔林の衰退をもたらす」として、日本生態学会は大会決議をもって警告している。しかもその周辺地域は複数の断層が存在する地滑り地帯でもある。このような地域での林道工事は、大規模な災害を誘発する危険性が高く、地域住民の安全を脅かすものである。多額の税金を投入し、貴重な自然を決定的に破壊する大規模林道工事は著しく公益性を欠く不要不急の公共事業の代表であるといわざるを得ない。

一方、北海道では大規模林道が貫通する沿線の大部分は国有林、道有林地帯であり、近年の国有林、道有林はともに公益性を重視する森林政策に転換され、とりわけ道有林では木材生産を目的とする択伐、皆伐をすべて廃止している。従って木材生産の効率化を追求する大規模林道は不要であるばかりか、シマフクロウ、クマタカ等の希少猛禽類、エゾナキウサギ、コウモリ類等、絶滅の恐れのある野生生物が生息する豊かな生態系の自然を破壊するものとして、一日も早い建設中止が求められている。

大規模林道計画は林野庁をはじめとする高級官僚たちの天下り先である「独立行政法人・緑資源機構」という組織維持のための方便に過ぎず、こうした構造がいわゆる官製談合の温床となっている。天下り官僚たちによる税金の詐取ともいえる不正が行われている疑いが濃厚な現状にあつて、自然破壊の元凶ともいふべき同機構の存続が許される道理はない。

我々、納税者であり、主権者たる国民の代表として、独立行政法人・緑資源機構の即時解体を強く要求するものである。

連絡先 大規模林道問題全国ネットワーク事務局

739-0424 広島県廿日市市前空 1-8-25

(広島フィールドミュージアム内) 金井塚 務

電話・FAX 0829-54-1155

E-mail kana.hfm58@viola.ocn.ne.jp